

2020 年度法学類「法思想史」レポート執筆・提出要領

2020 年 5 月 15 日 足立英彦

課題：WebClass に掲載している伊藤乾編著『原典による法学の歩み』（抜粋）から 1 節を選択し、その内容を要約しつつ、法思想史上の位置づけや意義（当時の法学以外の学問分野や政治・経済・社会状況との関係について考察してもよい）について説明しなさい。

締切：6 月 10 日（水）23:59（厳守）までに WebClass へ提出すること。

レポート作成における注意点

1. Word を利用して作成し、A4 縦置き横書き、1 頁の文字数を 40 字×36 行、フォントを MS 明朝 10.5 ポイントに指定すること。
2. 分量は 10 頁以内。
3. 冒頭に自分の所属学類と氏名（学籍番号・名列番号は書かない）、選択した文献の著者名・文献タイトルを明記すること。
4. 脚注は各頁の下に入れること。各脚注は必ず句点（。）またはピリオド（.）で終わること。
5. 頁番号を入れること。
6. 文献の出典表示法は法学類ハンドブック 2020 年度版第 2 別冊 29-30 頁や法律編集者懇話会『法律文献等の出典の表示方法（2014 年版）』（WebClass に掲載）に従うこと。
7. 参考文献一覧は不要。最初の出典表示では出典を正確に表示し、2 回目以降は簡略化してよい。
8. その他、初学者ゼミ等で学んだレポート作成方法を振り返り、参考にすること。
9. 引用は最小限に抑え、なるべく自分の言葉で表現し直すこと。自分が分からない事は書かないこと。他の履修者にも読んでもらうことを意識して、分かりやすく説明するよう心がけて下さい。
10. 授業の教科書や WebClass に掲載している参考資料（『ドイツ法学者事典』）、Web 上で読める学術論文等も参考にすることが望ましい。
11. 質問があれば WebClass の質問コーナー（チャット）に書き込んで下さい。

以上

## 2020年度法学類「法思想史」レポート講評

足立英彦

伊藤乾編著『原典による法学の歩み』から1節を選択し、その内容を要約しつつ、法思想史上の位置づけや意義について説明せよ、という課題を出しました。分量は10頁以内(1頁は40字×36行)としました。

履修登録者11名のうち9名がレポートを提出してくれました。選択されたテキストのうちわけは、サヴィニー「立法と法学のための現代の使命」:4名、イェーリング「ローマ法  
の精神」:1名、同「権利のための闘争」:2名、同「法における目的」:1名、ラートブルフ  
「法学入門」:1名でした。また、提出後、各自に他の学生のレポートを1つ選んでもらい、  
コメントを200~1,000字で書いて提出していただきました。

採点は、要約部分を80点、法思想史上の位置づけや意義についての説明を20点満点とし、さらにコメントが優れている方に5点加点しました。得点に基づく評価はSが5名、Aが4名でした。

以上